

(13) キャリア教育研究会

会長 岸本 教恵 (東山小)

副会長 田辺 長美 (後川中)

事務局 白石 浩美 (東山小)

1. 研究主題 「キャリア教育の充実を図る」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和3年 5月6日 (木)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	中村南小学校	16名 参加
令和3年 8月6日 (金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 ・研修① 内容：講話 「キャリア教育について」 講師：西部教育事務所 岡田 英祐指導主事 ・研修② 内容：実践発表 「総合的な学習の時間を通じたキャリア教育の推進」 発表者：後川中学校 矢部 真矢教諭	東山小学校	17名 参加

3. 四万十市教育研究会 夏季研修会

研修① 講話「キャリア教育について」 西部教育事務所 岡田 英祐指導主事

キャリアとは

人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねのことをいう。



キャリア教育とは

- ・進学指導や就職指導のみを目的とするのではなく、子ども達が社会を生き抜いていくために必要な資質や能力を、全教育活動を通じて身に付けさせようとする教育
- ・一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程）を促す教育



キャリア教育は様々な教育の土台

キャリア教育の推進

- ・キャリア教育の視点を各学校ごとに定め、その視点を基にした教育活動を全教育活動を通じて行うことが大切である。
- ・児童生徒自身が振り返って、自分の成長を実感したり、これからのキャリア形成を見通せたりするためには、キャリアシートの活用が必要である。

キャリアシートの活用目的

- ・個々の児童生徒が学習の記録として残すことで「自身にどのような能力が身に付いたか」「自身はどう成長（変容）したか」を実感できるようにし、キャリア発達につなげることを目指す。
- ・キャリアシートを効果的に活用し、キャリア教育を機能的に推進するために、各校における取組に「キャリアの視点」を位置付けることが重要である。

キャリアシートの活用にあたって

- ・教職員が児童生徒に身に付けさせたい基礎的・汎用的能力の内容を理解しておく必要がある。
- ・求められる能力を児童生徒と共有することが必要である。その際、基礎的・汎用的能力を児童生徒にも分かりやすい言葉で表現し、併せてその具体例を示すことが大切である。
- ・全体計画や年間指導計画へ反映させることが大切なポイントである。
- ・「自校では、このシートが活用できる」という内容を選択しながら年間指導計画に位置付け、実践につなげる。
- ・キャリアパスポートとして活用することで、学年や校種を越えた児童生徒の自己理解や教員の児童生徒理解につながる。
- ・キャリアシートを基に児童生徒と対話的に関わることで、児童生徒はより自らの変容を実感することができ、自己肯定感も高まってくる。〈キャリア教育の評価〉

研修② 実践発表「総合的な学習の時間を通じたキャリア教育の推進」

後川中学校 矢部 真矢教諭

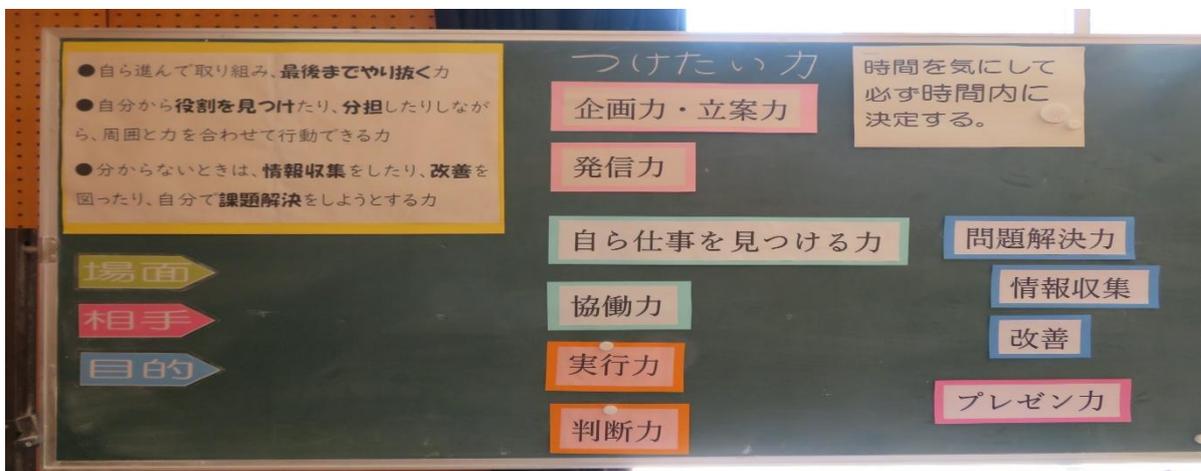
授業を組み立てるうえで大切なポイント

- ・教師が事前に水面下で動く。
- ・教師はコーディネート役との意識を持つ。
- ・考えたいような学習課題を設定する。
- ・付けたい力を明確化する。

付けたい力

- 自ら進んで取り組み、最後までやり抜く力
- 自分から役割を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動できる力
- 分からない時は情報収集したり、改善を図ったり、自分で課題解決をしようとする力

- ・常に、キーワードを提示し、付けたい力を生徒に意識させる。



- ・板書を工夫する。



- ・個々の個性（長所）にスポットライトが当たるような活動を仕組む。
- ・生徒の思考を大切にしたい授業づくりをする。（問いかけの工夫）
（だれが、いつ、どこで、何を、どのように、何のために）
- ・まず、やらせてみて、その後の生徒の気づきを大切にする。
- ・生徒の「やりたい」を広げてみて修正する。
- ・マイナス面も振り返る。

声かけの例

- 「もう一度するなら、どんなことに気を付けたい？」
- 「自分たちの取組は良かった？」
- 「自分たちは楽しかったけど、相手は喜んでくれたかな？」

4. 今年度の成果と課題

成果

- ・児童生徒の成長を促すための声かけの仕方など参考になった。
- ・児童生徒が自らを振り返り自分の成長を実感したり、今後のキャリア形成を見通せたりするためのキャリアシートの活用方法について学べた。
- ・昨年度の申し送り事項「実際の授業実践を交えて交流できると良かった」という意見を踏まえ、後川中学校の授業実践を聞いたことで自校の実践を見直すきっかけとなった。
- ・後川中学校の実践発表から、総合的な学習の時間とキャリア教育との関連について、具体的にイメージすることができた。

課題

- ・各学校でのキャリアシートを持ち寄るなど、具体的な取組について交流できれば良かった。
- ・校区内や四万十市全体のキャリア教育の充実につなげるよう、小中学校の連携について工夫ある取組や実践等の共有も必要である。